

田辺市新庄公園内の一角で羽化した クマゼミ（半翅目，セミ科）

Molting of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) at a corner of a park in Tanabe city, Wakayama
Prefecture, Japan

久保田 信

南日本に広分布する我が国最大級のクマゼミ *Cryptotympana facialis*（半翅目＝カメムシ目，セミ科）が、和歌山県西牟婁郡田辺市新庄公園内で、2013年に枝ぶりよく、葉がよく茂った1本のケヤキの1枚の葉上で、3個体が相次いで他個体の脱皮殻上で羽化していたのを報告した（久保田, 2013）。ここではこれより数年前から気づいていたのだが、その一角では（田辺市美術館の西側の歩道と館の間の庭）、そのケヤキにクマゼミの脱皮殻がいつも集中して付着していた。そこで、本年2014年に、その一角でどれくらいの数の羽化がどの様に見られるか調べた。

本調査はこの一角で6月下旬から約10日に1回の頻度で脱皮殻が見られなくなるまで数え、一回毎の調査時に見つけた脱皮殻を全て取り去った。その結果、この一角では恐らく7月中旬に羽化を開始し、半月で羽化が終了した。全部で91個体の羽化が見られ、その一本のケヤキ上で全体の56.0%の羽化が見られた（表1）。脱皮殻の見られた位置は、全て地上から3mより低い高さであった。

ケヤキにクマゼミの選好があることを京都大学フィールド科学教育研究センター紀伊大島実験所の梅本信也博士がご教示下さったが、この一角では確かにその様な選好性はあったものの限定はされていなかった（表1）。このケヤキの南北数mの範囲には高さ2m以下の灌木が何本も植えられており、そこでも羽化が見られた（38.5%）。そして、明らかに北側に植えられた灌木に脱皮殻は偏ってたくさんあった（88.6%）。

表1. 和歌山県西牟婁郡田辺市に所在する新庄公園内の一角（田辺市美術館の西側の歩道と館の間の庭）における2014年のクマゼミ羽化数

調査日	ケヤキ上	ケヤキ以外の小木	地面に落下
June 25	0	0	0
July 9	0	0	0
July 18	18	12	5
July 28	32	15	0
August 1	1	8	0
Total	51	35	5

引用文献

久保田 信. 2013. 脱皮殻上で相次いで羽化したクマゼミ（カメムシ目，セミ科）. KINOKUNI, (84) : 19.

（くばた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）